

お母さんになったら

28年度 8月号

皮膚トラブル、夏は特に気をつけましょう。

夏はあせもや水いぼなどの皮膚トラブルが多く、痛がったりかゆがったりするわが子を見るのはつらいですね。子どもの皮膚は大人に比べて薄く、細菌やウイルス、刺激などから肌を守るバリア機能が弱い状態です。また、汗腺は大人と同じ数があり、基礎体温も高いので、汗を大量にかくので、皮膚トラブルが起こりやすくなります。

あせも・・・あせもは汗の出口がふさがって、汗腺が詰まることでできるブツブツです。また、汗自体が肌を刺激してできることもあります。

水いぼ・・・潜伏期間は、2～7週間。ウイルス性の感染によって起こる感染症で、接触感染する。わきの下、胸部、腕の内側などにでき、体中に広がるが、かゆみはない。
予防・・・丁寧に手洗い、うがいをする。タオルの共有は避ける。

水いぼがどんどん増えると炎症を起こす可能性もあるので、少ないうちに皮膚科を受診しましょう。また、保育園で遊んでいる時の皮膚接触やタオルの共有などでも感染します。

とびひ・・・潜伏期間は、2～10日。かき壊して傷になったところに細菌が入り込むことで、接触感染する。米粒大の水疱ができ、うみを持ってかゆくなる。かいたり服が擦れたりして水疱が破れ、菌を含んだ液が飛び散り広がる。かいた手でほかの部位を触ることでも広がっていく。

予防・・・丁寧に手洗い、うがいをする。

皮膚を清潔にしておく。つめを短く切りましょう。

タオルの共有は避ける。

かさぶたになると炎症が強く、リンパ節がはれたり発熱やのどの痛みがでたりするので、早めに病院受診しましょう。

